

金山病院の療養病棟 広報げろ 2009.5

金山病院の療養病棟

◎療養病棟の役割

療養病棟の役割は病気の急性期を乗り越え病状が安定しても、自宅や施設に帰るには不安が残る患者に対して医療、看護、介護、リハビリなどを行って自立できるよう支援することです。

◎金山病院療養病棟では

下呂市立金山病院の療養病棟にはさまざまな病気で急性期を脱したものの、慢性の経過を取っている方々が入院生活を送っておられます。これらの方々に共通しているのは、自分で体を動かすことが出来ず、栄養を取ることも排泄も全面的に介助を必要とし、さらに、何らかの医療処置が必要となっているということです。

◎入院の条件

頻回(8回以上)の口腔内吸引、気管切開の管理、胃ろうの管理、褥瘡(皮膚潰瘍)の管理、癌の疼痛管理、呼吸器や尿路の頻回の感染、神経その他の難病などが入院の対象となります。食事介助 排泄介助、入浴介助が必要でも、医療的処置が必要ない場合、家庭に介護力がないというだけでは原則として入院できません。訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ、各種の介護サービスなどを利用した在宅療養、老人保健施設、特別養護老人ホームなどの施設入所をしていただくこととなります。徘徊があつて常時監視が必要な患者も管理の都合上原則として入院はお断りしています。

◎一般病棟への転棟

療養病棟では病状は安定しているとはいいいながら、寝たきり状態や誤嚥から引き起こされる肺炎、尿路感染症など積極的な医療を必要とする場合も生じます。必要な検査や抗生物質のなどの薬の投与の費用は入院料に包括されており別に保険請求できないので病院の経営を大きく圧迫します。このような場合は一般病棟に移っていただき、急性期の治療を受けることとなります。

◎施設への入所予約

療養病棟では医療処置が必要でなくなったとき退院となりますが、入院の際には退院後の在宅療養が困難な場合に備えて施設入所の予約を取っていただくことにしています。これは入院が必要な人のためにベッドを空けていただく意味で大変重要なことです。しかしながら年を経ることによってしだいに劣ってきた身体能力は、若返りが困難であると同様に入院療養によっても改善が難しく、ほかに受け入れ施設もなくて退院が困難な患者がおられるのも現状です。

◎療養病棟の今後

医療的処置が必要な慢性期療養患者は今後増えることが予想されますが、現在の地域におけるベッド数は限られており、ベッドの有効な利用によって地域の生活を支えていくためにも金山病院の早急な整備が望まれます。